

名所

此故にや、ともすれば、郷黨の爭論起る事あり、むかしもしか義氣強く武藝などもはげみしにや、當國の兵士健兒等を召しつかひ給ひし事多く、續日本紀、類聚國史ともに、天平寶字六年二月辛酉、簡點伊勢近江美濃越前等四國郡司子弟及百姓年四十類史已下二十類史已上、練習弓馬者以爲健兒云々と見え、延喜の兵部式諸國健兒の條に、美濃國一百人とするせり、又類聚國史に、養老四年十一月甲戌、遠江云々、美濃六國者、免征卒及廝馬從等調庸並房戶租とするし、三代實錄に、元慶二年六月二十一日乙酉、勅令東海東山兩道諸國簡擇勇敢輕銳者、須待出羽國奏請應機奔赴_土云々、美濃三十人と見え、日本紀略に、天慶四年六月二十四日癸巳、於右近馬場試近江美濃伊勢等兵士なんどしるせり。

〔美濃明細記十
名所和歌〕關藤川不破郡、關ヶ原の西、不破關跡の西に、近江國坂田郡藤川驛の方より不破關のきはに流る、むかしより橋にて渡る。○中略

不破關不破郡、關ヶ原の西、松尾村に舊跡あり。○中略

野上里不破郡、關ヶ原の東にあり。○中略

美濃中山不破郡、南宮山より西、關ヶ原迄の山也、みの、中山のうちなる故、南宮を仲山、金山彦太神と稱奉る。○中略

略

南宮神木白玉椿みのの、お山よ、み合也。○中略

美濃中山不破郡、南宮山より西、關ヶ原迄の山也、不破山と、萬葉に人麻呂讀るも此山なり。○中略

美濃中道中山の西南に道あり、關ヶ原牧田澤田のかた烏江より伊勢尾張へ船路の古道也、宗祇名所方角抄に出せり。○中略

垂井水不破郡、垂井宿南宮鳥居の邊、名井。○中略

青墓里不破郡にあり。○中略

笠縫里安八郡にあり、昔所往來の道にて、近き所に宿地と云所有らせば道もいとあしくて心

により外にかかる事二年之暮也月ま○中略